



2020年9月28日

株式会社立花商店 生田 渉

(新) 週刊カカオニュース 22号

毎度お世話になります。カカオトレーダーの生田と申します。カカオ業界の新年といえば10月1日。西アフリカの各国では10月からメインクロップのカカオ豆の収穫、納品が開始されます。今年は、コロナの影響下、新制度のL I Dの開始、そしてコートジボアール、ガーナの2大国の大統領選挙も控えており、例年よりやや慌ただしいカカオ関係のトピックスが多い為、状況を注視していきたいと思えます。

1. ガーナ、20/21新シーズンのカカオ買取価格は前年の28%上昇で最終確定(9/24)

ガーナココボードが正式に発表した情報によると、ガーナの新シーズンのカカオ買取価格は、64キロバッグあたり660ガーナセディ(=\$114)、または1トンあたり10,560ガーナセディ(=\$1,824)でカカオを全国の生産者から統一価格で買い取る。速報値では昨年比21%になると予測であったが、最終的には更に高い前年対比の28%の値上げが可能となった。この数値は、この新シーズンから導入されるL I Dの値上げ分に加えて、コロナショックが価格に影響する前の2月末頃までの2020年3月限月の先物価格が高値で会った事、一時コロナショック後の4-7月には低迷していたカカオの先物相場が8-9月で持ち直し堅調に推移したことから、ガーナカカオ豆の販売価格が高値で確約ほぼできたためであると思われる。ココボード傘下の販売会社であるCMC社(Cocoa Marketing Company)20/21シーズンの先売り契約を収穫予測量の内何パーセント程度販売したかは常に明言を避けるが、例年であれば既に20/21シーズンは売り切れていることが多いが、今年はまだ販売数量をまだまだ残しているようである。CMC社として今の相場が堅調で英国ポンド米ドルに対して比較的強いうちに、高値での販売を決めてしまいたいところであろうが、世界的なガーナ豆への需要は消極的であると強く感じます。*下記はガーナで発表された新価格のプロモーション広告(大統領選挙のPRですね)

"Nananom, beginning 1st October 2020, I am happy to announce the award of a new cocoa producer price of GH¢10,560 per metric ton, equivalent to GH¢660 per bag for the coming 2020/21 crop year. This represents a hike of more than 28% over the price obtained in the outgoing crop year of 2019/2020."

- President Akufo-Addo
24/09/2020
© Sefwi Wiawso

#4MoreToDoMoreForYou ©©© NakufoAddo

2. ガーナ大統領カカオ栽培リハビリテーションプログラムの開始を発表(9/26)



*カカオ生産地での式典でプログラムの発表を行う N a n a 大統領

9月26日のガーナココボードの発表によると、現大統領の Nana Addo Dankwa Akufo- Addo が全国のカカオ農園を対象にしたカカオリハビリテーションプログラムを開始すると発表した。このプログラムは、ガーナでのカカオ生産に最も深刻な悪影響を与えるウイルスによる病気である Cocoa Swollen Shoot Virus Disease (通称 CSSVD)で被害を受けた生産者の農園を修復する目的のプログラムとして実施される。

このプログラムでは、これまで、カ C S S V D で深刻な被害を受けたカオ生産地域での実験的なプログラムが成功しており、今回はその第二段階として全国規模にプリグラムを拡大する。

この大規模なプログラムの予算は、アフリカ開発銀行を中心する開発系の銀行を中心とした 6 億米ドル (約 630 億円) の大規模融資の中から、2 億米ドル (210 億円) 相当が予算化される計画である。

尚、以前のカカオニュースでも取り上げましたが、この 6 億米ドルの内、JICA (独立法人 国際協力機構) は 1 億米ドルの融資を担当しており、日本が初めてココボードに実質的に直接融資を行った初めての事例となっている。(J I C A プレスリリース https://www.jica.go.jp/press/2019/20200214_11.html)

3. ファンド勢のロンドンカカオ先物の買い越し、過去 15 週で最大に (9/25)

ロンドンカカオ先物市場において、ヘッジファンド等投機筋 (Managed Money) が今週、純買いポジションを 7,045 ロット増やし、合計で 30,453 ロットとなり買い越しが一層進んだことが、ICE 欧州先物取引所が発表しているデータから判明した。

- 純買いポジションの数量は過去 15 週で最も強気 (最も多い)
- 買いポジションの総量は 9 月 22 日までで前週より 3,832 ロット増加して、32,498 ロットとなった。買いポジションの総数量でも、過去 15 週で最も高い水準になっている
- 売りポジションの総量は 9 月 22 日までで、前週より 3,213 ロット減少して、2,045 ロットとなった。売りポジションの総量は、過去 15 週間で最小の数値となっている。

NY市場に比べて、9月22日までの市場ではロンドン買いポジションが一層積みあがっている。この積み上げが今週に入り、NYと同様に売られ始めてきた。今週9月28、29日は一度下げているが、コロナ後前後のように極端なポジションバランスの不均衡ではない為、下げの力が生じたときにでもそれほどの強さ、長さはないかもしれない。

4. ニューヨークの買い越しロットが減少、最近3週間では買い越しは一番弱気に(9/26)

ニューヨークカカオ先物市場において、ヘッジファンド等投機筋(Managed Money)の買い越しポジションがやや調整で減少。純買いポジション(=Net long position)が今週 6,390 ロット減って、34,541 ロットになった。

- 純買いポジションは、最近3週間で一番弱気水準水準(=買い越しが少ない)
- 買いポジションの総量は9月22日までで前週より4,131ロット減少して、63,687ロットとなった。
- 売りポジションの総量は9月22日までで前週より2,259ロット増加して、29,146ロットとなった。売りポジションの総量は過去7週間でもっとも高い水準となっている。

NY市場の雰囲気として、買われ過ぎていた状態から徐々に売りが先行してきている印象があり、今週からだんだん弱含む可能性が高い雰囲気がする。ただ、ものすごく売りが強くなってきている感じもしない為、一日に少しずつの範囲で少し下げのトレンドかという印象を持ちます。

5. ナイジェリアではメインクロップの収穫がオヨ、オスン州等でスタート(9/24)

ナイジェリアのオヨ州とオスン州で2020-21シーズンのメインクロップの収穫が始まった。トレーダーによると、この2つの州は既にメインクロップの収穫が開始された、国内最大のカカオ生産地域であるオンド州、オグン州、クロスリバー州、アクワイボム州、アビア州に引き続き、今週に収穫に入った。

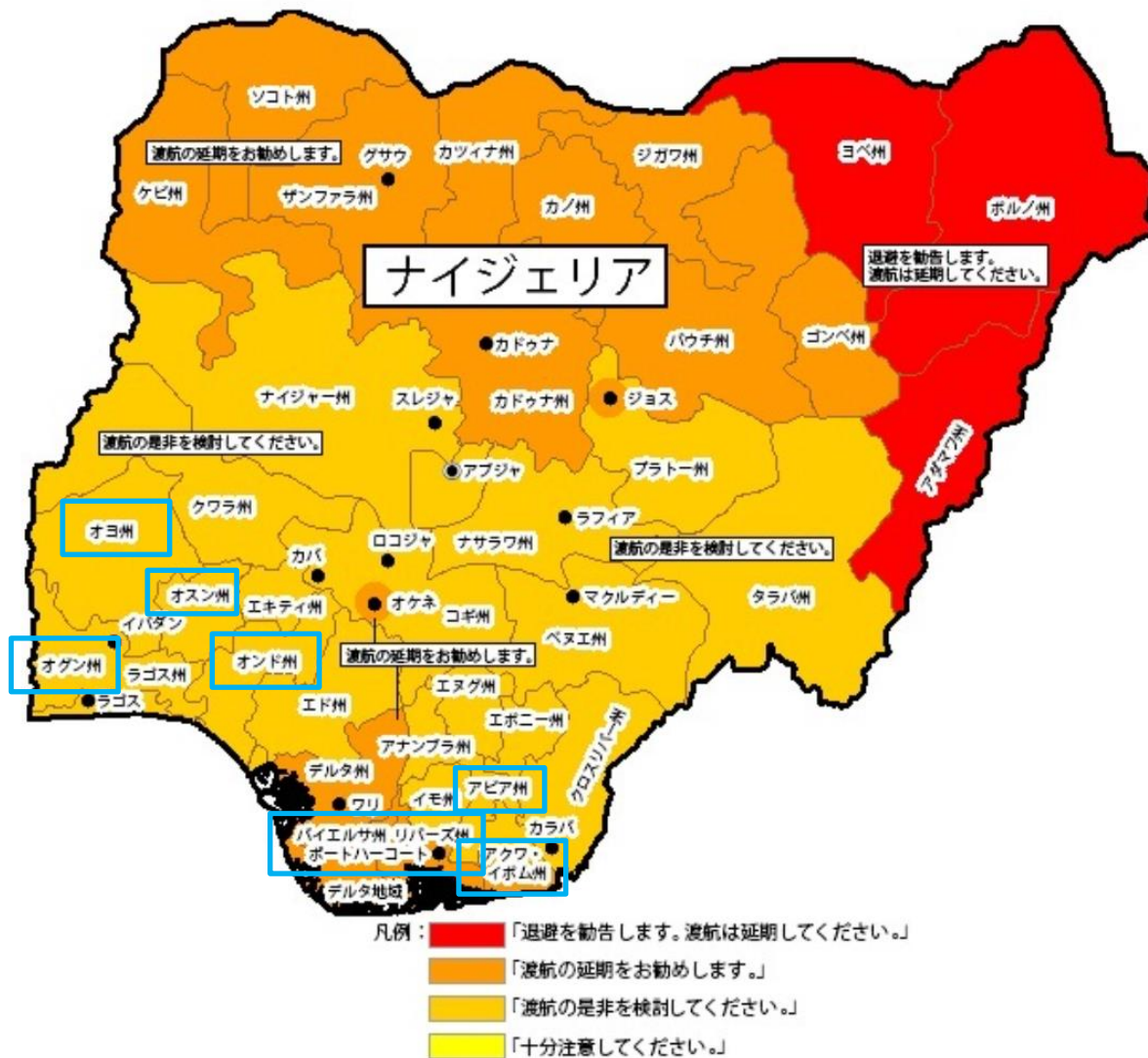
オヨ州都のイバダンの協同組合農産物マーケティング連合(略してCPMU)のマネージャーであるアキン・オモタヨ氏は、「カカオの収穫はオヨ州でも開始している」と述べた。

彼は、7月中旬から8月末までのカカオの発達を妨げた過酷な乾燥した気候の後、南西部の最近の降雨によって収穫が一気に加速し、後押しされていると述べた。

前述のCPMUは、輸出業者に代わって近隣のカカオ生産者からからカカオ豆を購入している。トレーダーによると、オスン州はナイジェリアで3番目に大きなカカオ生産州であるが、この週でも既にメインクロップの収穫が進んでいるとのこと。メインクロップの収穫は通常、9月にナイジェリア南部のカカオ地帯で始まり、1月または2月まで続きますが、遅い時期に雨が適度に降り、良い点区が続けば3月まで続く可能性もある。

同国のココア協会の全国書記長であるポール・オジョンは、2020-21シーズンの国全体のカカオ生産量を30万と予測しており、イバダンのトレーダー、フォラ・アデツツ氏は、10月からより多くの州が主な作物の収穫を開始すると予想されていると述べた。また、ナイジェリアのアクワイボム、アビア、オヨの各州では、25日金曜日にはココア価格が上昇した。アクワイボム州の州都であるウヨのトレーダー、バッシー・エキケレ氏は、選別済みの輸出用カカオ豆は、90万ナイジェリアナイラ*NGN(2,267ドル)付近で取引されていると述べた。木曜日の時点で州内価格で80万~85万NGNで取引されていた為、一日で5-6%の上昇を見せた事になる。オヨ州では、2週間前は85万NGNであったが、現在は87万NGNで売られているとのこと。また、南東部に位置するアビア州の州都ウムアヒアの南東では、ココアは先週の76万NGNと比較して800NGNで取引されていると話している。

*上記で登場した各州の場所については、下記の地図の青枠を参照。



6. コートジボワール選挙でのワタラ勝利のオッズが上昇(9/25)

現職の大統領に反対する野党グループの結束が不十分で、バラバラな動きしか出来ていない現状下、現職のアラサン・ワタラ大統領の 10 月 31 日の大統領選挙の投票での勝利のオッズはこれまで予測の 55%から 65%に増加したと、ユーラシアグループ社のアナリストが研究ノートを発表した。

- 市民的な不服従キャンペーンの反対による共同呼びかけは、野党政党連合の形成する可能性は低い
- 現状のコートジボワールは、社会不安のリスクは和らぎ落ち着きを見せおり、2010 年の投票に続いた危機の規模での広範な暴力、内戦状態のような結果になる事は非常に考えにくいですが、それでもなお、過去の経緯から政治的緊張は投票、選挙結果が無事に終了するまでは、やはり高いままである可能性が高い。

週刊カカオニュースの配信の削除、ご依頼については、下記アドレスまでご連絡願います。

株式会社 立花商店 生田 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp